

## 蟹江城（海部郡蟹江町城一丁目）（蟹江城址公園）

蟹江城（かにえじょう）は、現在の愛知県海部郡蟹江町にあった中世の日本の城（平城）。

### 概要

蟹江城は永享年間（1429年 - 1440年）に北条時任（ときとう）が城塞を築いたのがはじめと言われ、戦国時代には、本丸、二の丸、三の丸の三郭（さんかく）があり、大野、下市場、前田の三つの支城があった。しかし、1584年（天正12年）に起きた蟹江城合戦と翌年の大地震で壊滅した。現在は住宅地に城址の石碑と本丸井戸跡が残るのみである。

### 歴史・沿革

永享年間（1429年 - 1440年）、北条時任より築城される。

1555年（弘治元年）、今川方の松平広忠によって攻略され（蟹江七本槍）、その後も長島城主服部友貞の元、織田氏との対立の場となる。1567年（永禄10年）、友貞の資金により、織田家家臣滝川一益によって再構築され、その後の北伊勢進攻（1568年 - 1570年）、長島一向一揆（1570年 - 1574年）鎮圧の拠点となる。1583年（天正11年）、一益は賤ヶ岳の戦いの後に羽柴秀吉に敗れ、織田信雄の家臣、佐久間正勝が城主となる。1584年（天正12年）、小牧・長久手の戦いにおける蟹江城合戦では秀吉方となった一益に攻略されるも、徳川家康・織田信雄の大軍に包囲され、籠城戦の末、半月後に落城した。1585年（天正13年）、天正地震により壊滅した。

### Wikipediaによる

蟹江城は1429年頃（永享年間）、北条時任（ときとう）が城塞を築いたのが初めと言われ、戦国時代には、本丸、二の丸、三の丸の三郭（さんかく）があり、大野・下市場、前田の三つの支城があった。しかし、1584年（天正12）に起きた蟹江合戦と翌年の大地震で壊滅し、現在は城址の石碑と本丸井戸が残る公園となっている。

蟹江城を中心にして起きた蟹江合戦とは、長久手の戦いで徳川家康に大敗を喫した羽柴秀吉の雪辱戦であり、尾張における制海権を確保し、織田信雄と家康の間を離反させるための戦いであった。滝川一益（かづます）を主将に九鬼（くき）水軍を伴い、蟹江城主佐久間正勝（まさかつ）の留守をあずかった前田長定（ながさだ）の内応により無事入城し、成功するように思えた作戦であったが、大野城主山口重政（しげまさ）は助力を拒み、城内では鈴木重安・重治兄弟らの抵抗に遭い、徳川・織田連合軍の反撃により、秀吉は敗退した。これ以後、秀吉は武力をもって家康を屈服させることを断念し、謀略戦に転ずる決意をした戦いであった。

### 蟹江町観光協会サイトによる



